



平成17年10月、旧八雲町と旧熊石町が合併し、日本で唯一、二つの海をもつ町として「新八雲町」が誕生してから20年を迎えます。この間、両地域の発展と融和融合のため、町民の皆さまがそれぞれの立場や分野においてまちづくりにご尽力いただきましたことに、心より感謝申し上げます。



退任にあたって 「夢と希望を持てるまちへ」

前町長 岩村 克 詔

私は平成25年に町長に就任し、以降3期12年間、町政のかじ取りを担ってまいりました。任期を通じて一貫して目指してきたのは、「町民が夢と希望を持ち、安心して暮らせるまち」の実現です。特に、人口減少や少子高齢化といった課題に向き合い、産業の活性化と働く場の創出に重点を置いて政策を展開してまいりました。

農業では、令和3年4月、上八雲地区に「株式会社 青年舎」を本格稼働させ、道南初の研修牧場として地域農業の振興と担い手の育成に努めたほか、円安を背景とした生産資材価格の高騰を受け、「酪農経営安定緊急対策事業」「水稻もち米価格安定緊急対策事業」などを実施しました。

また、平成30年度から始めた醸造用ぶどう栽培は、地域おこし協力隊の努力で圃場を拡大し、八雲産ワイン醸造に向けた取組を進めてまいりました。林業では、森林資源やJクレジット制度の活用を通じて、カーボンニュートラル実現に貢献する森林づくりを推進いたしました。

漁業では、北海道二海サーモンプロジェクトに取り組み、熊石地域での5年にわたる実証試験を経て、昨年5月に法人設立、自主運営が始まっており、今後の日本海沿岸漁業の発展に大いに期待いたします。

商工業では、物価高騰対応と町内経済循環のため、令和4～7年度「プレミアム商品券」発行を支援し、また、町の財政基盤を支える重要な財源となっている「ふるさと応援寄附金奨励事業」では、返礼品開発や情報発信強化により、町内経済への波及効果と寄附金の増額に努めてきました。

医療では、八雲総合病院が災害拠点病院として機能し、令和2年以降の新型コロナウイルス感染症拡大時には、治療拠点として町民の命と健康を守ってまいりました。熊石国保病院も本年8月に無事オープンし、地域医療体制が整いました。

教育関係としましては、次代を担う子どもたちが安心して学べる環境整備として、落部小・八雲中の大規模改修、給食センター改築、令和6年度には町内全小中学校教室へのエアコン整備を実施したほか、令和6年には、北海道第1号の木彫り熊誕生から100年を迎え、「北海道木彫り熊発祥の地」としてさまざまな記念イベントが展開され、道内外でその価値や魅力が再発見されたところであります。

役場庁舎等の移転については、役場本庁舎・公民館・子育て・保健センター機能を集約し、令和10年5月の供用開始を目指しています。

これまでの12年の歩みを振り返りますと、常に町民の皆さま、議会、職員の皆さまなど多くの方々に支えられながら、町のトップセールスマンとして人との出会いを大切に走り続けることができました。ご縁をいただいたすべての皆さまに、心より厚く感謝申し上げます。

最後に、八雲町の未来永劫の発展と、町民の皆さま一人ひとりが夢と希望を持って歩んでいけることを切に願ひ、退任にあたってのご挨拶いたします。

温かいご支援・ご協力 ありがとうございました

